

研究タイトル：

長州藩の学問・教育思想と文学


氏名： 牛見 真博 / USHIMI Masahiro **E-mail：** ushimi@oshima-k.ac.jp

職名： 教授 **学位：** 博士(学術)

所属学会・協会： 全国漢文教育学会, 日本道德教育学会, 山口県地方史学会

キーワード： 学問・教育思想, 長州藩, 漢詩・漢文

**技術相談
提供可能技術：**

- ・学問・教育思想
- ・山口県の歴史
- ・漢文学

研究内容： 長州藩の学問・教育思想と文学について

山口県の教育は、幕末の吉田松陰に始まると言われる。それでは、そもそも吉田松陰という人物は、どのような風土のもとにあらわれたのか。そうした疑問を出発点として、主に、長州藩の学問・教育思想について研究を行っている。

その自答の大枠として、吉田松陰を生んだ長州藩の学問・教育風土の形成には、江戸中期に藩校明倫館創設に深く関わり、第2代学頭をつとめた儒学者・山県周南の影響が多であることを、拙著『長州藩教育の源流—徂徠学者・山県周南と藩校明倫館—』（溪水社、2013年）において論じている。

山県周南は、江戸中期に活躍した儒学者・荻生徂徠の高弟の一人であり、当時の江戸で流行した番付では、熊澤蕃山、新井白石、伊藤仁斎といった錚々たる儒学者の顔ぶれに交じり、十指のうちに数えられた。現在、その名は郷土の人々にもほとんど知られることがないが、彼の様々な尽力により、藩校明倫館の教育を通して、当時の徳川幕府の公認学問であった朱子学に異を唱える「徂徠学」が藩内に浸透し、長州藩は西日本における徂徠学の一大拠点となった。

「朱子学」の教育論が、一斉講義による、受身で、序列的・段階的な「画一的な学び」であったのに対して、「徂徠学」では、各人の興味関心に応じた「自発的な学び」を重んじ、「学べば誰でも相応に伸び」、「各人の特性に応じて、誰もが世に役立つ」ことなどを掲げた。徂徠学による学問・教育思想は、その後の長州藩に大きな影響を与えており、その意味において山県周南は、長州藩の学問・教育風土の源流に位置づけられ、吉田松陰の教育者モデルとも言える人物である。また、高杉晋作、久坂玄瑞をはじめとする松下村塾ゆかりの人物に関して、文学や海事志向など、先行研究とは異なる視点から人物像の再検討や再評価を試みている。加えて、明治時代の「海洋」や「愛国」をめぐる教育思想についても研究しており、最近の論文には次のようなものがある。

- ・「高杉晋作における一人称代名詞『僕』の使用」（『山口県地方史研究』第126号、2021年）
- ・「近代気象学の先駆者・中村精男：吉田松陰と松下村塾の影響を踏まえて」（『大島商船高等専門学校紀要』56、2023年）
- ・「日清戦争前後における『海国』教育の啓蒙をめぐる：明治期の教育雑誌及び新聞メディアの言説を中心に」（『海事史研究』79、2022年）
- ・「竹越与三郎『人民読本』における「愛国」をめぐる」（『近代日本研究』40、2024年）

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	